

技術士試験って面白い!?かもしれない…



取得した資格：技術士（建設部門：都市及び地方計画）
資格取得年度：令和元年度

わた なべ こう いち
渡 邊 康 一*

受験の動機・経緯

静岡市では、「静岡市技術職員人材育成ビジョン」を策定しており、「世界に輝く静岡」の実現に向け、人口減少や少子高齢化に伴う都市構造の変化や市民ニーズの複雑化、多様化に対応するため、技術職員の専門的知識の定着を掲げております。

具体的な目標の1つとして、2026年度までに技術職員の6割が技術系の資格を有していることを目指しております。そのような状況の中、私も何か資格を！と考えました。受験当時、都市計画の政策的な業務を担当しておりましたので、技術士の勉強が、現在の都市環境の課題や今後の展開など、直接業務に活かせると思ったのが受験したきっかけでした。

今回、主に私の勉強方法について紹介させていただきますが、後半に私なりに感じた技術士試験の「面白さ」について記載させていただきますので、少しでも皆様の受験動機に繋がれば幸いです。

筆記試験（2次試験）における留意点や学習のポイント

筆記試験対策ですが、テーマごとのキーワードの整理と、論文の作成練習を繰り返し行いました。キーワードの整理では、キーワード別に解説のある参考書を中心に勉強しました。また、技術士の問題は、最近の話題から出題されるケースが多いと思

ますので、国土交通省のHPや専門誌を定期的にチェックし、情報収集に努めました。

次に、論文作成の練習ですが、まずは過去問を解きながら出題の形式を掴み、その後、自分で問題を作成し、起承転結を意識しながら論文の練習をしました。作成した論文をなるべく第三者に見てもらいました。本市では、技術士の資格取得を推進するため、先輩技術士を中心とした「二次試験対策セミナー」があり、セミナーの一環で論文を添削していただきました。

初学の頃は、いざ書いてみると非常に難しく、問題に対する回答が論理的でなかったり、的確な言葉が浮かばなかったりと苦勞しました。そのような中の対策として、専門誌の表現を参考にしました。普段は斜め読みをしていた記事も実際に論文に活用できそうなキーワードや、役立つ表現が含まれおり、特に自分の選択科目に直結する記事についてはコピーを取りファイリングしておりました。

また、論文の練習では実際に手書きで書いてみると時間が足りなくなることが多く、一番肝心の「結」の部分に充てる時間が無くなってしまいう傾向にありました。その対策方法として、「起」の部分については、ある程度は事前から書けるようにしておく準備しておりました。例えば、我が国の課題として「人口減少」や「高齢化社会」など考えられますが、

*静岡市 建設局 道路部 道路保全課 主査

このキーワードから想定される現状や問題点等はスラスラと書ける練習をしておりました。回答を丸暗記することは得策ではないと思いますが、論文の一部として使える文章をいくつか考え、本番で時間をかけずに書くことができれば、少し時間に余裕ができると思います。

続いて、勉強時間の確保についてですが、論文作成練習にまとまった時間は欲しいところではありますが、私はあまり時間が取れなかったので、通勤時間を利用して勉強しました。通勤前に試験問題のお題を1つ考え、頭の中で起承転結を構成し、キーワードを含めて組み立てられるかどうかを練習しました。自分の不得意分野については、時間がかかったり、キーワードが出てこなかったりすると思いますので、そこを重点的に後で調べて少しずつ知識を広げていくイメージで勉強しておりました。

口頭試験の対策

口頭試験の対策というと、まず、「業務経歴書」「業務詳細」の作成がスタートかと思います。私は、ほぼ筆記試験のことしか考えておりませんでしたので、今思えば口頭試験をイメージしながら作成すると良かったと思います。

具体的には、口頭試験時の対策に必要な「技術士法」や「技術士倫理綱領」を念頭に作成すると良いかと思います。口頭試験対策は大きく分けて技術士としての「実務能力」と「適格性」に分かれますが、想定質問としてそれぞれ約50問ずつ作成しました。私は、回答が長くなりやすくなる傾向にありましたので、質問に対して真っ直ぐに短く回答できる練習をしました。回答は、「技術士として相応しいか」という視点を入れることが重要かと思いますので、業務経歴書作成と同様に、「技術士倫理綱領」を意識した回答になるよう心掛けました。また、本市の技術士セミナーにおいても、先輩技術士による本番

さながらの雰囲気模擬面接を行っていただきましたので、当日は慌てずに回答できたかと思います。

技術士試験の面白さ

前述でもありましたが、これから受験を考えている方や、モチベーションのアップに向け、私が感じた技術士試験の面白さを少しでもお伝えできればと思います、建設部門の必須科目の過去問題を2つ紹介させていただきます。

1つ目は、平成21年度に出題された「建設業界の解析、設計等のコンピューター導入により、計算結果の妥当性を判断することが困難になっている状況の中、技術力を維持するための方策」という問題です。

私も発注者として、橋梁の耐震補強工事など解析が必要な業務に携わりましたが、コンサルタントから提出された解析結果をどこまで詳しく確認すれば良いかなど、疑問に思うことがありました。

2つ目は、平成19年度に出題された「団塊の世代が定年退職することによる技術に与える影響」という出題です。近年も、「技術の継承」というテーマで出題がありましたが、建設業界の抱えるその時代の課題の変遷を感じました。

このように、過去問では、普段の業務を進めていく中で、共感できる問題や、時代を感じ取れる問題があり、私は、気分転換に時々、自分の受験する専門科目以外でも日頃から関心を持っておりました。

おわりに

受験にあたり、ご協力いただきました本市のセミナー関係者、先輩技術士、家族に感謝を申し上げるとともに、これから受験される方に適切なアドバイスができるよう継続研鑽していきたいと思っております。

【著者紹介】 渡邊 康一（わたなべ こういち）

平成18年度静岡市入庁（土木職）。都市計画、道路整備等の職務に従事。平成23年度には国土交通省都市局市街地整備課へ研修員として派遣。現在は、道路保全課交通安全施設係として、通学路や生活道路の交通安全対策を担当。